

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を元に事業所の目標や個人の目標を立てて取り組んでいる。毎日の申し送りに全員で理念を共有し実践につなげている。	「共に歩む」という法人理念があり、「笑顔、言葉、食、住まい」を基に具体的に示した法人のコンセプトがある。法人全体の年度目標、部門(施設)目標、各職員の個人目標カードなどに理念やコンセプトを落とし込み実践している。職員は理念について十分理解しており、経験や習熟度など、それぞれの立場で自分なりに絞り込み取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の方々と挨拶・世間話をして日常のお付き合いが出来るよう努めている。地区のお祭りの際は、神社に詣でたりしている。又子供神輿等が立ち寄ってくださり、楽しいひと時を過ごしている。	町会に加入し町会費も納めている。地区のたよりも配布され、地区の情報も町会長などからいただき、地区の草刈にも職員が参加している。近所の住民から野菜や花の差し入れもある。小学生との交流や専門学校生・大学生の実習の受け入れも行なわれ、絵手紙、習字、オカリナ、ハーモニカ、三味線のボランティアも来訪し利用者となふれあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の公民館等で認知症に関する話し合い等に参加させて頂いている。又近隣の方からの問い合わせ、質問にお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や、利用者様の状況等報告し、それについて話し合い、意見を頂いている。防火・防災についても課題にあげ指摘して頂いた事等を貴重な参考資料としてサービス向上に努めている。	基本的に偶数月の第三水曜日午前中に開催している。利用者代表、家族代表、ホームの隣人、町会長、常会長、民生委員、知見者、地域包括支援センター職員が参加し、活動報告や利用状況、重点的な課題について検討している。地域の情報や助言などを頂き地域に開かれたホームとなるための重要な場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケースワーカーや調査員と連携をとり実情にあったサービス提供に結びつけている。地域の包括支援センターとは常に連携をとりあい情報の交換をしている。	運営推進会議以外でも地域包括支援センターとは連絡を密に取っている。地域包括ケアにむけた地域ケア会議も活発に行われようになってきており、ホームからも参加している。市主催の研修や会議などにも可能な限り参加し情報を集めるようにしている。認定調査も市職員がホームに来訪しホームから利用状況を説明している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束しないケア」の意識を持って対応している。利用者様の体力や状況によりリスクの発生が多い箇所については施錠を行う事もあるが、様子をみながら極力開錠を試みている。	法人の医療安全対策委員会が主催する研修会の他、ホーム内でもミニ研修会を開くこともあり、身体拘束をしないケアを徹底している。今年、ターミナル迎えられた方に安全性から柵を使用した家族にも必要性についての説明をし経過記録もとった。職員も身体拘束をしないケアについて十分理解している。	

グループホームおかだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について常に意識を持ち、ミーティング等で話し合いを持っている。特にスピーチロックにはお互いに注意を払っている。又待遇と関連した勉強会も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報を収集し、成年後見人制度を理解する様に研修会に出席し職場内で話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず書類を通し、特に契約時には、十分な時間をかけて説明を行いご理解を頂いている。又疑問点等質問し易い場作りにも心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見や要望を表して頂ける環境作りにも心掛けている。又、運営推進会議で家族の意見をお聞きしたり、市の相談員の訪問の機会も設けている。	殆どの利用者が意見や思いを言葉として表わすことが出来、職員は日々の申し送りを大切に一人ひとりの思いを汲むようにしている。体調が優れない時などに発語に波のある方も若干いるが表情や仕草に合わせ言葉がけで意思を確認している。家族の来訪は月2から3回の方が多く、その際には日頃の様子を話し、家族からの意見や要望をいただいている。家族会が5月と10月の年2回開催され、食事会を主にコンサートなども企画し利用者や家族、職員がざっくばらんに話しをし、頂いた意見・要望は運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、毎日の申し送り時、ミーティングに於いて意見交換をし改善に反映させている。又、年2回の個人面接で意見を聞いている。	法人の取り組みとして職員は一人ひとり「目標管理ノート」を作成し、半期に一度振り返りをしている。基本的には「目標管理ノート」を基に上司と面談がもたれるようになっている。法人のグループホーム部会が月1回開催されており、それぞれのグループホーム独自に行っていることや力を入れている点、業務上改善が必要なことなどが提案等として上げられている。同じ法人の運営するホームであっても自分たちのホームで参考することも沢山ありお互いの啓発材料となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見を聴き、積極的に取り入れている。自発的に取り組む姿勢を大切にし意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、職員全員が参加出来る様取り組んでいる。		

グループホームおかだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流の他に外部研修などに出席を促し、他の同業者事業所とも交流をする機会を作り、情報交換の場を作ってる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活暦、性格、欲している事等を御本人様・ご家族から情報を頂き、要望に添える様努めながら職員間の情報交換を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方の来設の際にお話をする機会を作り時間をかけ情報を頂き、要望に添う様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を重視し、ケアプランを作成し了承を得ながら状態に沿った介護を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の過ごされて来た環境等を理解し、人生の先輩と敬い共通の話題を提供するなど共感しあい暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の話を聞いたり、コミュニケーションを図りながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の節々に実家へ帰ったり、長年慣れ親しんだ家具などを継続使用していただけるよう配慮している。	90歳以上の利用者が三分の二近くと超高齢化しつつあり、さすがに友人や知人がホームを訪問することは少なくなっている。希に、自宅近所の方の来訪を受ける利用者がいる。お盆や正月、お彼岸等で一時帰宅する機会も希になっきているがホームでは希望があれば支援している。春になると今は誰も住んでいない実家の近くにフキノトウがでるので本人と希望する利用者、職員で出掛けている。	

グループホームおかだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を把握し、孤立されている方の無い様職員は、中間的な立場に立ち支援している。皆で共有できる話題を出したり一緒に出来るゲーム等で楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や本人の経験や体験等を伝える機会等をつくり、契約終了後も気楽に来所出来るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送りやミーティングなどで情報交換を密にしあい、一人ひとりの希望や意見を受け止め極力サービスに取り込む様になっている。	認知症状はあっても自分から思いや意向を話すことのできる利用者が多い。利用前の生活歴や嗜好等についてはセンター方式で把握し日々の暮らしの中で一人ひとりの好きなことができるように環境を整えている。新聞記事のスクラップ帳づくりに精を出す方や今年から習字に挑戦しイキイキとした表情を見せる方などという。法人としても「パーソンセンタードケア」など最先端ケアの研修等を開催し職員の自己啓発を促しており職員も意欲的に取り組もうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の会話の中での話題やアセスメントでご家族様から直接お聞きした情報を基にミーティング時に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時や昼休み時にご利用者様についての情報交換の時間を設け現状の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様やご本人からの意向、意見をお聞きしている。それらを基に職員でのケース検討、モニタリングを実施しご本人に沿った計画を立てている。	日常生活の支援や居室の整理整頓を担当する職員が各利用者にはおり、ケース記録も記入している。ホームでは朝の申し送りを重要視しており、利用者一人ひとりの状況を各職員はつぶさに把握している。介護計画のモニタリングは担当職員が行い、月末のケアカンファレンスで全職員で検討している。計画作成担当者により計画はまとめられており、3ヶ月毎にサービス担当者会議も開かれ利用者の状態に合わせ更に本人や家族の悩みごとや相談事項も検討し変更をかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カードックス等に記録し、職員全員が内容を共有している。勤務前には記録を確認し変化については話し合いを行いケアの見直しに結びつけてる。		

グループホームおかだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスなどで状態を掴み、一人ひとりの状況にあわせてサービスし、又地域の資源も利用させて頂きながら、滞りのないケアの連携に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、地域の推進委員、市の相談員、消防、警察などの協力を得る。又地域包括支援センターと常に連携をとりよいケアに結びつけるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則的に契約前のかかりつけ医となる事を説明し同意を得ているが、提携している医院でも受診出来る旨をお話している。受診を家族から依頼されれば代わって職員が行う。	ホーム近くの協力医による往診が月2回にあることからかかりつけ医を協力医に変更する利用者が多い。定期受診については家族の付き添いを基本としているが家族の都合等により職員が付き添うこともある。緊急の場合には情報提供書を家族に渡し受診をしていただくこともある。ホームの看護師と同じ敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護師が連携し利用者の健康管理や相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師のアドバイスを受けながら健康管理を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、情報を提供し、病院の看護師、医療相談員と連絡を密にし、退院時はカンファレンスを開き、ご家族の相談も受けながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてご本人・ご家族と話し合い、担当医と連携をとりながらホームで最後を向かえることも可能となった。	ホームの重要事項説明書に法人としての「重度化した場合における対応に係わる指針」があり、利用開始時に本人や家族に説明がされている。今までホームとしてもご希望をされた方の終末期支援に取り組んできたが利用者本人や家族の心も揺れ結果病院に急遽入れられなくなった例はあった。そのような経緯の中で今年ホームとして初めての看取り支援を家族や協力医、職員の意思統一の下実施した。ホームの手厚い介護を受けご本人も当初の予測をはるかに上回る期間をホームで過ごされ90歳台前半の天寿を全うされた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い本部での講習会等にも参加している。		

グループホームおかだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導にて、避難誘導、消火器の取り扱い、災害訓練等を実施し月1回のミニ災害訓練も行っている。法人内のプロの指導者により様々な災害の想定のもとで、施設内の訓練を行っている。又、運営推進会議を通し地域への協力をお願いしている。	年2回の総合防災訓練や法人一斉の地震想定訓練の他に地区の防災訓練にもホームの防火防災委員会の職員が参加している。災害伝言ダイヤルを使いミニ訓練を行うなどあらゆる想定をしている。法人内のグループホームをモデルにした模範訓練のビデオを法人として作成し啓蒙活動もしている。地域の方も訓練に参加し運営推進会議の議題として取り上げ助言もいただいている。食料品などの備蓄はホームとしても備えているが、近くの公民館にある防災倉庫の備蓄も使用しても良いという内諾をいただいている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないよう、言葉には気を付け心を温めるやさしい言葉がけに努めている。又自己チェックを行い、今一度振り返っている。	法人の取り組みの中で「接遇チェックリスト」、「プリセプターチェックリスト」などを使用し日頃の人格の尊重や言葉かけなどについて職員が自己評価をしている。契約書にも利用者や家族の権利として「個人として尊重されること」、「プライバシーの保持」、「尊厳の維持」などについても謳っており、職員も十分理解し実践している。利用者への呼びかけも「〇〇様」あるいは「〇〇さん」としており、いずれも敬意を込めた形で行うよう意思統一がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が、希望等を伝え易い様なコミュニケーションを心がけご本人から思いを表出できるような雰囲気づくりをめざしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り一人ひとりのペースでの生活を優先して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度理容師が訪問している。身だしなみ等にもさりげなく声がけし希望の衣類を用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に食事をしながら味付け、切り方等の助言も頂く。野菜等の下準備、下膳の手伝い等もして頂いている。折りにふれ量、味、希望メニューの間き取りの機会をつくり希望を取り入れている。	殆どの利用者が介助なしで食べることができ、トロミをつける方が若干名、食事制限のある方もなく平均年齢や平均介護度を考えると驚くほど健康家である。やきそばとバーベキューの特別メニューや行事食なども交え楽しく食事ができるように配慮している。蕎麦打ちのボランティアも訪れている。プランターを使い、ピーマンやキュウリ、ナス、トマトなどの夏野菜も収穫し、今年初めて梅干づくりに利用者と職員で挑戦した。	

グループホームおかだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせている。医師からのアドバイスが必要な方もおり、それぞれに応じた対応となっている。食事は手作りであり食事摂取量も毎食確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必要に応じて声がけ、介助等行なう。コップ・歯ブラシの消毒も行なう。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握、又「サイン」の行動を見逃さない様にし、本人のプライバシーを尊重した支援が出来る様に努めている。おむつ使用を避け、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。	介助を必要とする利用者は三分の一ほどで、自立しているが時間で声掛けし誘導する方が三分の二ほどとなっている。リハビリパンツとパットの方が多く、日中と夜間でパットの厚さを変え不安のないようにしている。自立している方でも安心のため居室にポータブルトイレを置くこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や体を動かす運動の取り入れをしている。又、個別で乳製品などの購入をしている方もいる。必要な場合は、排便の記録を付け調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決められているものの、入居者様の状態に合わせてタイミングを見ながら声掛けし、支援を行なっている。足浴・清拭が必要な時は随時対応できるようにしている。	浴室は家庭用よりやや広めで浴槽も三方向から介助できるようになっている。殆どの利用者が立位をとることができるので職員は見守りと一部介助をしている。利用者のその日の状態によってはスライド用のボードを使用したり職員二人で介助することもある。基本的に入浴は午前中の時間帯であるが、拒否された場合には時間をずらし声がけしている。季節にあわせ菖蒲湯や柚子湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様が自由な場所にて休まれている状況を職員は常に見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の用法、用量については常に確認しあい理解している。薬の変更があった場合は、職員全員に速やかに通達、徹底し、体調の変化にも注意し、医師に伝え指示を仰ぐ。		

グループホームおかだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味をお持ちの方には、役割をもって頂いている。手作業、お勝手仕事、おやつ作り、市内のスーパーに買い物にも出ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴等出来る限り希望に添う様になっている。外出の折食事・喫茶等楽しんでいる。又御家族様に極力協力をお願いし外出の機会を増やしている。	日頃はホーム周辺や敷地脇を通る神社の参道などを散歩している。春には市内の公園に花見に出かけたり、隣の市のバラの名所に全員で出掛け道の駅で買い物などを楽しんだ。時には居間の前の庭でバーベキューを楽しんだり、神社参道入口に出来たうどん屋に昼食を食べに出かけたりしている。	平均年齢や平均介護度を考えると全体での外出は難しくなっている。職員の勤務体制が厚い日には一人ひとりの日頃の要望に合わせ個別での外出支援にも努められることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の希望により、施設側での管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が電話をしたいと言われれば、ご自分で電話をかける機会が持てる様の支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節のお花等を置いたり、季節感あふれる利用者様の手作り作品を飾っている又、居室の管理を利用者様の希望や状態に合わせてるように配慮している。	3つに分けた食卓のある食堂とソファーやテレビが置かれた居間は続きの広間で、洗面台と鏡も備え付けられている。また、それらに並び台所もゆったりと設えられ動き易い。職員が生けた色とりどりのコスモスや秋明菊などが華やかさを感じさせてくれた。習字や絵手紙など、利用者の作品も壁面に張られ、日頃の成果を来訪者に示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所には、ソファーやテーブルがあり、一人でも、多数でも利用できる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物の持ち込みや、使用については身体状態に合わせて希望に沿うようにしているが場合によってはお断りする事もある。	居室はフローリングで掃き出し窓となっているので窓は広く日中は照明なしでも明るい。洗面台とクローゼット、エアコンが備え付けられている。自宅からダンス、座卓などを持ち込み、その上に家族の写真などが置かれている。習字などの自分の作品を飾られている居室もみられた。クローゼットも広いので全般に整理整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自然体で接し、ご自分の「できること」「わかること」を生かして頂ける様配慮している。トイレ、洗面台、入浴用具などで出来る限り力を活かせるようになっている。		